（本號十面）　（明治廿五年三月十一日郵便信省認可）　明治二十六年十二月十日　（定價金二錢五厘）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には毎號評細なる商況物價の報告あり

第三千八百三十六號
明治廿六年十二月十二日火曜日
舊曆癸巳十一月四日（癸未）
日出午前六時四十三分　入午後四時二十七分
月出午前九時五十三分　月入午後七時三十八分
滿潮午前七時三十一分　滿潮午後七時五十一分
（西暦一千八百九十三年）

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外郵送には此他後に掲ぐる郵送料を要す）

一號　貳錢五厘○一箇月　前金五拾錢○三箇月　前金壹圓四拾五錢○六箇月　前金貳圓八拾五錢○一箇年　前金五圓六拾錢○月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

●前金　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報郵送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢

五　露領浦潮斯德、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絕する事もあるべき筈に付兼め廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず偶り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と誤まる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

非內地雜居論の非を論す

世間一種の論者が外人の內地雜居を以て我國の爲めに大不利なりとする其議論の要旨は頗る漠然たれども歸する所、歐米人は日本人に比すれば銳猾にして營利に巧なるを以て一度び雜居の禁を解くときは彼の輩は陸續國內に入込み來り商賣に工業に我國人と利を爭ふは必然にして其結果として遂には日本商人の手に落つ可き利益をば悉く外商に奪ひ去られ我實業界は彼等の壓迫する所と爲りて復た見る藍もなき狀態に陷る可しと云ふに外ならざるが如し即ち論者は日本人と西洋人とを比較すれば少なくとも商賣の一點に於ては優れの我れに優るみと數等なるを明に自白する者にして愛國者の議論としては聊か自信に乏しきものと云はざるを得ず其無氣力なるは兎も角もとして茲に最も注意を要するの一事は今日事々しく非內地雜居論を主張する者の人物如何の問題なり彼の無智無學なる頑固者流が一片の感情に制せられて所謂翼國人を嫌ふが如きは固より論外にして怪しむに足らざれども其論者中にて稍や上流の位置を占め世間に多少の勢力あらんと思はるゝ人に成て見るも十中八九は西洋の書を讀まず西洋の人に接せず專に商賣取引の事は最も不慣なる所にして知見甚だ廣からず外商に如何なる技倆あるや、日本の實業は如何なる邊にまで發達したるや、內外相接して双方の駒點は果して何れの處に存して利害の歸する所、果して如何なる可きやなる實際の問題に就ては極めて迂濶なる人物のみ此種の人が實業界の商人に面接すれば一言の下に論破せられて辯論に窮するが故に常に之を避けて近づかざるは世の普く知る所なり左れば斯る商賣以外の空論家が商賣上の利害を根據にして內地雜居の得失を喋々するは生來曾て竹刀を手にしたるみと もなき町人百姓原が劍術の勝負に意見を述るが如し其說の取るに足らざるは固より分り切たるとにして我輩は世の實業者と共に重きを置かざる者なり蓋し彼輩は我開國の始に日本人が外商の爲めに欺かれて大判小判の賣買に損失を蒙りたるみとなどを傳聞し又記憶して歐米人の狡猾を恐るゝ者にてもあらんかなれども是れは日本武士が弓矢を以て異國船を退治せんとしたる其同時代に起りし昔々の物語にして爾來我武備の進歩と共に商賣法も亦共に進歩し大判小判の談の如きは今は唯一場の笑話に歸するのみ誰れか三十餘年前の笑話を今日の實地に再演する者あらんや商家眞劍の勝負に素人の差圖無用たる可きものなり現に横濱神戸等の開港場にて內外商の取引に外商のみ獨り利益を專にするみとなきを見ても我國人が歐米人に對して利を爭ふの能力に乏しからざるを知るに足る可し或る實業家の話に我國在留の外國商人の中往々內地の米相場などに手を出して勝敗を試るものなきに非ざれども大概は皆失敗して多少の損害を蒙るの常なり斯る商人輩が內地に入り來りて商利を爭ふみと あるも恐るゝに足らざるのみか其來るみと意よ多くして商業の意よ繁多なるみろ商家の本意なれ又面目なれ如何なる事情に接するも我商權を奪はるゝなせしは思も寄らざるみとなりと云へり之を要するに非雜居論者が內外競爭の結果に就て抱念するは其人の平素商賣の實地に於て外國人の技倆も日本人の技倆も共に之を知らざるの罪にして其知らざるの極、遂に虛病に陷りたるものと云ふ可し左れば身躬から實業に從事して既に外人の手並を知り又自家の力にも覺ある當局者にして高大丈夫なり之を公言し又實際に徹して之を保證するからには最早や傍より言ふ可き辭柄もなかる可き筈なるに尙ほ喋々止まざるは何か爲めにする所あるものなりとの結論に歸せざるを得ず外交は國家の大事なり政客一時の利害の爲めに之を玩弄せんとするも天下具眼の士人は其裏面にまで論究して許す所なかる可し

官報

○內務省告示第六十四號

一明治二十七年九星表　全一冊　增山金次郎發行　京都市下京區寺町通四條上ル

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治二十六年十二月十一日　內務大臣伯爵井上馨

○郵信省告示第二百七十六號

本月十六日ヨリ左ノ通郵便受取所ヲ移轉改稱ス

明治二十六年十二月十一日　郵信大臣伯爵黑田清隆

國市郡名	舊稱	移轉位置	改稱
大阪市西區北堀江下通二町目郵便受取所	堀江下通三町目郵便受取所	北堀江下通三町目郵便受取所	堀江下通三町目郵便受取所
兵庫縣神戸市下山手通	下山手通郵便受取所	下山手通郵便受取所	下山手通郵便受取所

○郵信省告示第二百七十七號

本月十六日ヨリ常陸國湊郵便電信局ニ於テ歐文電報及歐字又ハ亞剌比亞數字ヲ記入セタル和文電報モ之ヲ取扱フ

明治二十六年十二月十一日　郵信大臣伯爵黑田清隆

雜報

○地方の機關、九州の旗色　自由黨の分裂以來各地方に於ける同黨派の旗色は慎かに一變したり勿論同黨內部の事情は斯くあるべしと誰しも夙くより豫想したるならんが各地の機關新聞は成るべく之を糊塗せんとの意にや他の攻擊に逢ふも務めて自黨の手前味噌を並べ居たるに灌生氏の除名、二十餘名の分裂、星氏脫黨の事等地方に傳聞せしより急にろの筆鋒を改めたるもわれば躊躇して中央部の大勢を傍觀し何ども筆を下す能はずして他の奚を買ふもわり就中自由黨に大關係を有する九州地方の各新聞は地理の遠隔せるため詳細を知るに幾多の日數を要するのみか日々の電信は一回毎に急を報じて まず〳〵意外の事のみ多ければ其所論も一定せざるに平生無事の日にてすら筆戰激しき同地方の事とて反對派の論難甚だしく殆んど答辯方に困却の體なりしが佐賀縣の自由黨機關として聞えたる肥筑日報は「自由黨の旣往現在を說き大聲疾呼縣下の民黨に質すと題して自由黨と九州民黨及び佐賀民黨の關係を述べ

嗚呼佐賀縣民黨は勿論九州人士は自由黨に向て尙ほ忍ぶべき義務あるか啞、機は一たび去て再び來らず云々

と論結して今の自由黨に反旗を揭げたり鹿兒嶋縣下に於ける民黨の機關新聞は「星亨氏の脫黨」と題して今の星氏にして（信任問題後の）自由黨に在るは一利なくして百害利なしと論じ

偶り怪む星氏自由黨星氏を除名せしにあらずして星氏先づ自ら自由黨を脫せんとは……今や自由黨の清靈に投ぜらるゝに當り實如自由黨を脫する嗚呼彼は何のために自由黨を脫せし乎

と痛く星氏を難じて自由黨の除名せざるを嘱刺したり

熊本の西海道自由新聞は未だ決する所なきためか「此際西海道自由は如何なる方針に出るや聞かまはし」と題して「熊本新聞より促され福岡の福陵新報は「自由黨脫黨者の將來」と題して脫黨者に二派あり一は東北派にして一は九州派なれ後者は容易に足らず前者の去歸すべし後者は容易に足らず前者の去るも斷ずる所なきとして所見を述べ自由黨の影響なれるべし

○新潟縣會の會にても亦常置委員を聞くに同縣に於て六日の常置委員會にて其筋へ答申しかりしみとを議決し起立者八名にて常置委員が不勸めの不勸めかんと建議せしかりしが元來同縣會の問題は遂に否決したり

○斐伊川國庫縣松江市にては去雲國撰出同縣々會合し同川治水費のみと

○冬季博覽會概の建築を終り當込者に地區を引渡なり場中に於て繼る內輕氣球は乘遊爲め乘るもの多かるもの甚だ多く隨本邦の人力車を屢度も頻りに其計畫

○佛國の養蠶蠶卵高は二十二萬を以て一オンスと入百六十九基の成績を見るに昨ンス（昨年に比すて收穫繭の量數は

佛國種　（オンス）
日本種　二一
復製日本種　一
其他外國種　一
又右に付收穫繭の
佛國種　九、五二
復製日本種　六
其他外國種　一八
又蠶卵一オンス及
高價なりしが如し

○鑄鐵會社の度株式組織となし
十五萬圓を合して